

「学校教育を効果的に進める学校施設・設備の改善について」

- 現状の把握と課題の設定 -

I はじめに

学校は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習、生活の場であり、教育活動を行うための基本的な条件である。このため、学校施設設備の改善は教育活動の効果を高める上できわめて重要である。

平成4年に学校教育を進める上で必要な施設機能を確保するために、計画及び設計において必要となる留意事項を示した学校施設整備指針が文部科学省より示された。

学校施設整備指針は、平成13年に、少子高齢化社会への移行や情報通信技術による変革などの社会状況の変化や、学習指導要領の改訂による教育内容・教育方法等の変化に対応するために改訂を行った。その後、平成15年に、学校施設の防犯対策の推進、既存学校施設の耐震化の推進、建材等から放散される化学物質による室内空気汚染の防止対策等に関連する規定の見直しを行った。また、平成19年に、特別支援教育を推進するための施設設備の基本的な考え方を示し、バリアフリー化に関する内容を示している。

また、学校と設置者が連携協力し合いながら施設の実態を評価することにより、施設の維持・改善を目的に「学校施設の評価に関する手引き」が文科省より提案されている。

これらの背景には、学校に次のような新たな機能や改善が求められていることによる。

- ・ 指導要領の改訂などによる教育内容の変更、教育方法の多様化への対応
- ・ 地震や侵入者への対応、生活する場としての安全対策
- ・ 地域に開かれた施設としての機能。それに伴うバリアフリー化など

現在、昭和40年から50年代に立てられた多くの校舎は築30年を超え、改築、改造の時期を迎える。また耐震補強の実施が叫ばれており、学校施設整備について検討する時期に来ていると思われる。

甲州市学校運営研究会では、本年度より3年の間、「施設設備の活用・保全」をテーマに研究進めていくが、前記の学校施設整備指針や「学校施設の評価に関する手引き」等の観点に基づき、甲州市の学校施設設備に関する整備等について、学習する機会とする。

本年度は、アンケート調査を実施し、実態を把握し、課題を集約し、次年度以降、課題の改善等について考察し、学習を深めていきたい。

II 研究計画

- ・ 20年度 現状把握、分析、課題の把握
- ・ 21年度 課題研究
- ・ 22年度 課題研究、まとめ

○平成20年度の研究

- 6月19日 ・研究テーマ、研究計画等の決定
- 7月15日 ・学校施設設備に関するアンケートの提案
- 8月11日 ・夏季教育研究集会
 - ・アンケートの実施、集計
- 10月21日 ・アンケートの考察、学習会
- 11月 4日 ・秋季教育研究集会
- 2月10日 ・課題の集約

Ⅲ 研究方法

- 1 甲州市の小中学校施設設備に関するアンケートによる実態の把握
- 2 結果の集約、課題の考察

Ⅳ 調査のまとめと課題

今年度は研究課題を明らかにするためのアンケート調査と結果の考察を行ってきた。

今回のアンケートの結果から、甲州市の小中学校の学校施設設備について次のような点が明らかとなった。

- 1 校舎や施設の老朽化などが見られるが、コンピュータールームの整備等により教育方法の多様化への対応が図られている。今後の学校教育の進展や情報化の進展等に向けて、学校LANの整備、教師一人一台パソコンによる学校事務の効率化等により、より充実したものとなると思われる。
- 2 多くの学校においてエリアサイレン等による全校通報システムが整備されているが、学校敷地内や校舎内に死角が見られる小中学校が多く、不審者の侵入に対しての防犯上の課題がみられる。学校の危機管理計画との関連を図りながら検討していくことが必要である。
- 3 各小中学校において、夜間や休日での体育館や校庭の社会体育への貸し出しは進んでいる。これからは、地域住民にとって最も身近な公共施設として、空き教室等を地域の学習の場等としての活用し、校舎内のバリアフリー対策を図りつつ、必要に応じ他の施設との連携や地域の防災拠点としての役割を果たすことが重要であると思われる。

学校施設整備については、基本的には行政と関わりが大きく学校の裁量で改善できる部分は限られている。予算等の要求の説明のために学校の実態、法令、国の施策等について研究を重ね、共通理解を図ることが大切である。

また多くの視線から学校施設整備についての課題をとらえるために、児童生徒や保護者の意見もアンケート等も必要であろう。

(文責 奥野田小学校 齊藤誠二)